

## 医療トピックス

### どこが違う？(9)

#### 急性骨髄性白血病(AML)の治療-化学療法と造血幹細胞移植

東区・紫南支部

(今村病院分院・細胞治療部長) 武元 良整

急性骨髄性白血病(AML)はがん化学療法で治癒可能な病気と教科書に記載されるまでになりました。最近も若い芸能人の方や野球選手の方が発病しましたが、見事、困難を乗り越えて社会復帰したとの報道がありました。白血病は不治の病と言われた頃と何が違うのでしょうか？日本の大人の白血病研究グループの成績(JALSG: Japan Adult leukemia study group)をもとにその違いを説明しましょう。

AMLに対する化学療法成績:

表1(文献1)にはAPL(急性前骨髄球性白血病)271例の治療成績の中間解析を示します。化学療法による寛解率が94%, EFS%(無病生存率)73%と非常に高い治療効果が認められています。Group A-Dは治療前の白血球数で分類したものです。診断時の白血球数が少ないA群の予後が良い事が明らかです。表2(文献1)はAPL以外のAMLの治療成績です。寛解率が66.8%, その後の強化療法を短期で十分に行う方が生存率36%です。長期にだらだらと治療する群の25%よりも良い事が示されました。診断時の検査項目でその予後を層別化して予想するとGood riskの症例では42%の生存率です。それ以外の群は化学療法だけで病気がなおせるといえる数字ではありません。次にt(8;21)という染色体転座をもつAMLについて検討した成績を表2でみてみましょう。予後良好と考えられているt(8;21)のAML-M2-では生存率56%, 無病生存率53%です。それ以外のAMLは41%, 21%と低い成績でした。以上の事から, AMLは予後が必ずしも良好では無く一部のAML, とくにAPLとM2のt(8;21)を有するものは, 高い確率で社会復帰が可能ですが, その他ではまだきびしいと言えるでしょう。予後不良の症例は治癒を目指すには造血幹細胞移植(SCT; stem cell transplan fation)が必要となります。

表1 . APLの治療成績 - 中間報告(1997.5 ~ 2002.6)

表1 APLの治療成績-中間報告(1997.5~2002.6)	
1. 評価例-271例	
-完全寛解	94%
-生存率	48%
-EFS%	73%
2. RA症候群の頻度	
	78%
3. EFS%	
-Group A	83%
-Group B	76%
-Group C	57%
-Group D	69%

表2 . AML809例の治療成績

表2 AML 809例の治療成績	
1. 完全寛解率	66.8%
2. 地道め後強化療法の生存率比較	
短期終了群	36%
長期継続治療	25%
3. 層別化の生存率比較	
Good risk	47%
Intermediate	39%
Poor risk	38%
4. t(8;21)を有する群とそれ以外との生存率(無病生存率)比較	
t(8;21)有	56(53)%
無	41(21)%

AMLへの造血幹細胞移植:

AMLへの自家SCT: 自分の細胞を用いて移植するものです。国内でも世界でもその治療効果は一定の評価がなされています。昨年12月の米国血液学会では英国からMRC-AML10の成績が報告されました(文献2)。自家SCTは生存率51%, 化学療法だけの生存率は40%でした(P=0.03)。小児科領域でも同様に自家SCTの5年無病生存率60%, 再発率39%と報告されています(文献3)。

AMLへの同種SCT: 兄弟や他人から造血幹細胞を移植する治療です。国内の成績は極めて良好です。図1(文献4 P23)に示すようにAMLの第1寛解期では66.4%の生存率, 第2寛解期は59.3%, 第3寛解期35.2%そして非寛解期は15.5%です。移植前の白血病の病期が生命予後に影響を与えていると思われま。また, 非血縁者間骨髄移植では第1寛解期の5年生存率は

66%と同胞間移植の生存率と同等の成績が示されました(文献4:P24)。

白血病の治療は化学療法か？移植か？という選択ではありません。どちらも100%の保証がないのが現実です。しかし、これまでの治療方法の蓄積された情報を提供することで、化学療法移植かを医師が決めるのではなく、患者自身が決められるように主治医は見守っていきたいと考えています。

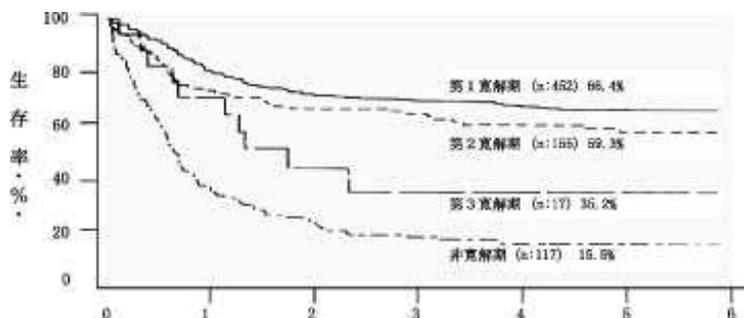


図1 急性骨髄性白血病のHLA適合同胞間骨髄移植の生存曲線

( ) 内の数字は患者さんの数を表します。生存率は5年生存率を表します。

御質問は次のアドレスまで

E-mail : SCT@jiaikai.or.jp

次回は どこが違う？(10)

従来の移植療法とミニ移植

## 文 献

1. 平成14年度 12月JALSG斑会議口演資料於:愛知県がんセンター
2. Goldstone AH et al. Stem cell transplantation in acute myeloid leukemia in the younger adult. ASH Education Program Book. Hematology 2002, 2002: 79-90.
3. Lacate F et al. Factors influencing outcome and incidence long-term complications in children who underwent autologous stem cell transplantation for acute myeloid leukemia in first complete remission. Blood. 2003; 101: 1611-1619
4. 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会編集『白血病といわれたら』2001年3月増補改訂版, P13-26